

# 第1回町田市公共施設等総合管理計画検討委員会 議事録

## 1 開催日時

2025年4月25日（金） 午前10時00分～11時30分

## 2 開催場所

町田市庁舎 2階 市民協働おうえんルーム

## 3 出席者

### <委員>

(株)日本経済研究所 総務本部長	神山 和美 氏
一橋大学 大学院経済学研究科 国際・公共政策大学院 教授	佐藤 主光 氏
東洋大学 大学院 経済学研究科 教授	難波 悠 氏
東京都立大学 都市環境学部 助教	讃岐 亮 氏
町田市町内会・自治会連合会 会長	高橋 清人 氏
町田市青少年健全育成地区委員会連絡協議会 会長	新井 邦夫 氏
町田商工会議所 産業政策委員会 委員長	竹内 健 氏
町田市社会福祉協議会 事務局長	北澤 英明 氏
独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部多摩エリア経営部 部長	入谷 規生 氏

### <事務局>

政策経営部	部長	唐澤 祐一
企画政策課	課長	石井 敬子
	公共施設再編担当課長	平野 圭
	公共施設再編担当係長	犬塚 晴征
	再編プロジェクト推進担当係長	木村 千絵子
	-	高木 貴弘
	-	島村 卓爾
	-	鈴木 健夫
	-	桐山 夏奈
	-	小嶋 美香

## 4 傍聴者

なし

## 5 次第

はじめに（事務局から）

- ・町田市公共施設等総合管理計画検討委員会について
- ・委員長及び副委員長について

### 1 対象計画の概要について

2 町田市の公共施設等を取り巻く現状

3 改定に向けた検討工程

## 6 議事要旨

### はじめに

#### ○ 事務局（唐澤 政策経営部長）

本委員会は、「町田市公共施設等総合管理計画」及び「町田市公共施設再編計画」の改定について検討していただく場である。両計画を策定してから今までの間に、施設整備費の高騰、ライフスタイルの変化・進化等の社会環境の変化が生じた。さらに、「まちだ未来づくりビジョン 2040」、「町田市 5 ヶ年計画」との整合性を図る必要も生じている。町田市では、1970 年代から 90 年代にかけての人口流入期に小・中学校等の公共施設を一斉に整備してきた。財政も右肩上がりで成長したため、このような施設整備にも対応することができた。しかし、今後、税収の中心となる生産年齢人口は減少し、多くの公共施設を一斉に更新することは困難な状況となる。総量を減らしながらも時代に適応し、将来につながるように公共施設を更新する必要がある。市民生活や地域づくりに大きく影響するため、計画的に取り組む必要がある。この際には、単にコストダウンを図るのではなく、より良い公共施設、公共空間を実現したい。検討委員会の関連な意見交換を通じ、また今年度実施するアンケート調査や市民参加型ワークショップ等を踏まえて、より良い計画としていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

### 町田市公共施設等総合管理計画検討委員会について

（事務局から「参考資料 町田市公共施設等総合管理計画検討委員会について」に沿って説明。）

### 委員長及び副委員長について

（事務局から委員長及び副委員長の選任を提議。佐藤委員から神山委員が委員長に推薦され、異議なく決定された。また、神山委員から副委員長として佐藤委員が推薦され、異議なく決定された。）

### 議事 1 対象計画の概要について

（事務局から資料 1 に沿って説明。）

#### ○ 委員

昨今の物価高騰が尋常ではない。建設事業者及び周辺業者は、他に仕事がいっぱいあり、手すら上げてもらえない。今後良くなることはないという前提に検討を進めるべきである。

#### ○ 事務局

町田市でも物価高騰の影響を受けて、入札を行っても落札業者が決まらないことが起きている。理由は労働者が確保できない、金額的に合わないなどである。財政の見通しなども考慮のうえ計画を見直したいと考えており、物価高騰は考慮すべき要素と認識している。公共施設の更新などに関する取組を計画的に進められない可能性も踏まえて、検討して参りたい。

○ 委員

今の説明は、「町田市公共施設等総合管理計画」と「町田市公共施設再編計画」の現状の認識を共有するための説明と理解すればよい。

○ 事務局

そのとおりである。

○ 委員

現状の計画について、次を見据えた時にどのような点が課題と想定されるか。また、計画改定にあたり必要な要素や、現行計画策定時と現在における重要な前提の違いはあるか。

○ 事務局

今の説明は、計画の改定において考慮すべき背景としての説明である。現行計画策定後の社会情勢の変化等の背景や、現状に関する分析は、今回の改定に関する課題認識につながってくるものと思う。今後、多くの公共施設をどのように更新していくかを検討する際、まさに話題となった物価高騰は考慮すべき事項となっている。計画を策定した 2016 年、2018 年から、コロナ禍、物価高騰といった社会情勢の変化は激しい。そういった現実をきちんと踏まえて計画に反映させたい。例えば、リモートワークといった働き方の変化など、生活様式の変化がある。ほかにも、テクノロジーの進化により行政サービスの電子化が進展し、窓口に行かなくても済むようになっている。今回の改定では、このような変化を踏まえ、公共施設のあり方そのものを見直す必要が生じている。

## 議事 2 町田市の公共施設等を取り巻く現状

---

（事務局から資料 2 に沿って説明。）

○ 委員

今の説明について、最も受け取りやすい指標は量的・数値的な指標である。例えば、経常収支比率は財政の弾力性を見るうえで理解しやすい指標である。一方で、公共施設をどのくらい持っているかという情報に対しての適正値は世の中に存在しない。多摩 26 市、東京都 23 区と比較したとき、町田市の市民 1 人当たり公共施設延床面積 2.21 平方メートルはどう読めばよい。この情報をどのように活用するかという道具立てはあるか。

○ 事務局

資料 2 の 9 ページに町田市、多摩 26 市、東京都 23 区の市民 1 人あたりの公共施設延床面積を分析した資料を掲載している。ご指摘のとおり適正規模の判断は容易ではない。町田市の現状の立ち位置を視覚的にわかりやすくしたいという意図である。

○ 委員

この部分は昨年度に「町田市立地適正化計画」を作っていくうえでも議論のタネになった。仮に指標を設定するのであれば、どのような評価をしていくかも併せて検討する必要がある。しかし、量的指標

は数字をいじればよい、となってしまう傾向がある。地域の営みを適切に把握するためには、量的な指標だけでは丁寧ではなく、公共施設がどのくらい利用されているか、どのくらい愛されているか、そういった観点も絡めて検討していくべきである。

○ 事務局

評価については、公共施設の利用状況等を踏まえて行うべきと捉えた。

○ 委員

今の事務局からの説明は、社会環境、財政を含めての環境に関するものと理解した。2016 年及び 2018 年に作られた現行計画が、今どのような状況になっているかについても説明が欲しい。例えば、資料 2 の 11 ページでは 2021 年に町田第一中学校の建替えがあったと記載がある。これはこの計画に基づいて建替えたものなのか。また、全体の総量削減目標は現在どのくらい進捗しているのか。

○ 事務局

現行計画について、「町田市公共施設等総合管理計画」が 2016 年 3 月、「町田市公共施設再編計画」が 2018 年 6 月に策定している。「町田市公共施設等総合管理計画」を策定した 2016 年当時は、学校や市民センター、コミュニティセンターといった個別施設ごとの計画、いわゆる個別施設計画はなかったが、「町田市公共施設等総合管理計画」の策定後に、各所管部署において個別施設計画を策定して方向性を具体化し、公共施設等マネジメントの取り組みを進めているところである。例に上がった学校について言えば、2021 年度に「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定し、小・中学校の統合・建替えなどの大きな方向性を示したうえで、学校統合等の取り組みを進めているところである。このような公共施設の再編、総量圧縮の取り組みは進めているものの、現在の公共施設の延べ床面積は約 98 万平方メートルと、「町田市公共施設等総合管理計画」を策定した当時よりも増加している状況である。各個別施設計画を着実に進める努力をしているが、総量圧縮につながっていない点は課題と捉えている。今後の計画改定にあたっては、このような現行計画の取組状況も踏まえて、より実効性があるものにしていきたいと考えている。

### 議事 3 改定に向けた検討工程

---

（事務局から、資料 3 に沿って説明。）

○ 委員

注目した点は、工程表の調査対話等に記載のワークショップと地域での意見交換である。ワークショップと地域の意見交換の 2 つは違うものか。また、参加者にはどういうことを語ってもらいたいのか、その内容は計画に対してどのようにフィードバックをするのか教えてほしい。

○ 事務局

ワークショップと各地域での意見交換は異なる。ワークショップについては、7 月に 5 つの地域の市民センター等で実施を予定している。地域の中での公共施設はどうあるべきと考えられているのかを把握する観点で実施する想定である。各地域での意見交換は、各市民センターでの市民センター祭りなど、

イベントに出展し、イベントに来場された方を対象として意見などを聴取するイメージで考えている。子どもの意見聴取は、市内の子どもセンターなどに出向き、意見を聴取したいと考えている。計画の見直しは市だけで進めるのではなく、アンテナを高く持ち、広く市民の意見を反映したものとしたい。

#### ○ 委員

ワークショップや意見交換をする意義は理解した。これまでの「町田市公共施設等総合管理計画」、「町田市公共施設再編計画」、各個別施設計画の際にも折々で同様のワークショップや意見交換をしているものと思う。同じことをやろうとするとアリバイ作り、と捉えられかねない。これまでのワークショップにおいて、どういうところが課題となっているのか、どういった意見を拾えたのか、それがどのように公共施設再編やマネジメントに活かせたのか。そのようなレビューをせずに、再度同じことをやっても意味がない、という批判が想定される。

#### ○ 委員

滋賀県でも公共交通の新しいビジョンを作るため、県内で対話集会を開いている。早い段階で市民を巻き込んでコンセンサスをとることは重要である。そのような市民との対話の際には、エビデンスを示さないと、空中戦になってしまう。公共施設の利用実績、固定資産台帳から把握した施設ごとの減価償却費、更新投資の見通しといったデータをエビデンスとして示すべきである。どうしても理念先行になってしまう傾向があるため、数値を出して過去の経緯・現状を見せていくことが大事だと思う。

子どもにはあまり見られないが、大人は今のことを考える傾向がある。10年後の町田市、といったように目線を合わせるべき。今の話をする、あれも欲しいこれも欲しい、となりがち。対話をするなら、目線の置き方を工夫するとよい。

#### ○ 委員

今の論点は私も重要であると考えている。「町田市公共施設等総合管理計画」及び「町田市公共施設再編計画」は「この間、つくったばかり」と感じる。中身を知らない市民は、「またか」と思うだろう。現在の学校統合の議論と同様に、具体論が出たら反対運動が始まる。こういったものの成否は、結局はどのくらい市民が必要を理解できるかにあると思う。ある意味、諦めてもらうことになる部分が多いからである。いかに市の現状、将来の姿を描いて、ある程度まで諦めてもらえるかが重要ではないか。複合化して便利になるといっても響かないだろう。一番響くのは、財政的に支えきれない、持続できないことについて、データを示して、市民の方に理解してもらうこと。ここが勝負であると思う。ワークショップの際には、データで前提を示して理解してもらわないと良いワークショップにならない。みんな勝手なことを言うだけになってしまう。丁寧に説明してほしい。

#### ○ 事務局

説明の中でも財政状況について言及しているとおり、ご指摘に関する認識はある。ワークショップや各地域での意見交換といったアクションには、市民の方に知ってもらうという面もあるので、その機会を利用して適切に情報発信し、周知も併せて図っていきたい。

#### ○ 委員

コメントが2点ある。

1 点目は、アンケート調査について、何を聞こうとしているのか。比較的初期段階で実施予定となっている。先ほどの議論からは、何を聞いて何をするのか、見えてこない。何のためのアンケートか、現時点でお考えがあれば教えてほしい。

2 点目は、全体的な話として、施設機能別の方向性について、枠組みは現状を踏襲するのか。現在の分類はあくまでも分野であり、実際の機能には踏み込んでいない。公民館、集会施設、その他の施設を見ていくと、結局会議室が大きな割合を占めている。機能を見れば同じ会議室なので分野横断的に統合できるかもしれない。分野別のままだと、このような観点から把握できないため、結局量が減らないということになりかねないのではないかと考える。

#### ○ 事務局

アンケート調査では、公共施設の再編等により目指す姿を具体化するうえでの市民ニーズなどを把握したいと考えている。10年後の町田市、将来の町田市の公共施設の姿、現状を踏まえて将来どのような姿を目指していくべきかなどを聞いてみたい。具体的な内容は今後詰めていく。

施設の分類の話は、現行計画の「町田市公共施設等総合管理計画」で18分類、「町田市公共施設再編計画」では26分類がある。それぞれの分類が異なっているので、機能別に新たな分類を考えていく方針である。

#### ○ 委員

一般的に、公共施設を再編・統合するという話は、このままでは財政が持たないことが背景にある。私の地域でも、図書館の統合の話が出ている。ここで重要なのは、子ども関連・教育関連の施設は50年・100年の資本であるという認識である。貴重な資本だが、効果が出るまでには長期間掛かる。公共施設に関して一律に考えていくよりも、プライオリティをつけて検討していくことが大事だと思っているが、どう考えているか。

#### ○ 事務局

「町田市公共施設等総合管理計画」という計画の名前が示すとおり、総合的に管理をしつつ再編を進めていかないと施設維持が立ち行かなくなるという前提のもとに、どのような公共施設があるべきか、そのあり方を描いていくことが現行計画の趣旨である。様々な施設をどのように再編・維持管理していくかは、施設ごとに考えていく。財政事情はあるが、市の基本構想・基本計画の実行計画である「町田市5ヵ年計画」の検討と連動して、優先順位を精査しながら検討していくことになる。

#### ○ 委員

現行計画の進捗状況がどのように検証されているのか、分からなかった。先ほどの委員のおっしゃることと共通する。そのあたりを抜きにして話を進めていくのは疑問を感じている。

公共施設の見直しは、町田市だけで考えられる話ではないかもしれない。保健所やさるびあ図書館の建替えの話も聞くようになった。そうなっていくと、UR都市機構や都、場合によっては国とも話が必要ではないかと感じている。

「町田市公共施設再編計画」には、「多世代」、「多機能化」という言葉が出てくるが、今回いただいた資料には入っていない。この点は疑問である。ソフトはできてもハードが追いついていないのではないのか。この点は、今後この委員会において検証が必要ではないか。

また、全体として「ふわっ」としている印象である。具体的な例が出てくれば真剣な議論になる。現状は理念に近いところがある。身近な公共施設の話になれば、具体的な意見などが出てくるはずである。現時点では、本日の資料のとおりでよいと思うが、具体化した際に果たしてこれが市民全体の意見になるかという、違うかもしれない。今後、この検討委員会を進めるにあたって、個別の話を踏まえて考えていかないと、1年後、2年後に全体的に「ふわっ」とした話で終わってしまうのではないかと危惧している。

#### ○ 事務局

委員ご指摘の点は、事務局としても重要であると認識している。2023年の「町田市公共施設等総合計画」の一部改定については、国の要請を受け、更新を図ったものである。今後、検討を進めるにあたっては、個別・具体的な事例が出てこない、議論しにくいものと思う。例えば、今後の公共施設再編に関する取組としては、学校再編が大きなテーマとなるものと想定している。小・中学校については、「地域活用型学校」として、教育だけでなく、地域コミュニティの核となる場所と位置付けていく方向性である。このような方向性を踏まえ、公共施設再編等により目指す姿などを検討していく必要があると考えている。今後は、このような具体的な議論も出てくる予定である。検討工程の目指す姿、基本方針、施設機能別の方向性といった検討の段階で、具体的な議論ができればと考えているので、よろしくお願いします。

#### ○ 委員

全体に関する意見としてだが、先ほども委員から財政の話が出てきたとおり、現行計画の策定時点と現在では経済状況が大きく違っている。計画を策定した2016年、2018年当時はデフレでゼロ金利だったために借入は比較的容易だった。まだ物価高でもなく、デジタル化も進んでいなかった。今は物価高、資材高騰で公共事業に関する入札の成立は容易ではなくなった。2010年あたりまで増加していた労働力は、最近では頭打ちになり、人手不足が顕著になった。一方で、デジタル化が進んで施設の利用状況が把握しやすくなり、窓口のオンライン化が進んだ。デジタル化で公共施設の利用の仕方が変わってゆくだろう。このように、10年前と今とでは、経済・社会状況が大きく変わってきている。このような変化に応じて、計画を見直していただきたいと思う。

そうはいっても、先行きがあまりにも不確実な状況である。だからこそ優先順位をつけなくてはならない。絶対守らないといけないもの、絶対やらないといけないものは何か。例えば、「教育は守る」とか、そういう考えもあると思う。しかし、学校を例にあげると大変かもしれない。最初から妥協する気はないが、例えば先ほど例にあがった図書館でも、具体的なモデルケースがあればよいと思う。一方で、「諦める」とか、先延ばしできるもの、積極的に撤退すべきものもあると思うので、色分けをしていくべきだと考える。それは現状の施設別だけではなく、もう一つ空間別・地域別に考えると良いと考える。同じ施設であっても、利用状況は地域・場所によって違うはず。空間と分野とを分けたマトリックスのイメージである。そこに優先順位をつけていくと、状況が変わったとしても、「やるべきことはやろう」、「この部分は先延ばしにしよう」、といった判断ができるものと思う。

#### ○ 委員

時間になったので、本日の議論はここで終了としたい。委員の円滑な議事運営に感謝する。

## 事務連絡

---

○ 事務局

会議の最後に事務連絡をお伝えする。次回の第 2 回町田市公共施設等総合管理計画検討委員会は、2025 年 7 月 2 日（水）、10 時からを予定している。

○ 委員

10 月以降は、地域の行事が多くなる。日程が分かれば、早めに案内をいただきたい。

○ 事務局

承知した。

以上